

ICR変更事項2015年度版

オンラインカレンダー Online Calendar

218.3.2 FIS カレンダーデータ

オンライン専用 FIS カレンダープログラムが開発されており、FIS ウェブサイトにて提供され各国スキー連盟や第三者が無料で利用できる。カレンダー情報の変更を含む、更新された Fiscal.zip ファイルは、ftp サイト (<ftp://ftp.fis.ch>) より、毎週利用可能である。この Fiscal.zip ファイルを FIS カレンダープログラムにアップロードして利用する。

その後、事業計画等の目的で必要な場合には、各国スキー連盟の独自ソフトウェアに、このカレンダーデータをエクスポートすることもできる。ただし、このデータを第三者または、組織らに商業目的で譲渡することはできない。

※補足

オンラインカレンダーが確立された。同時に競技会プログラムの情報告知も明確にできるようになったので、各組織委員会は以下のプログラム（大会情報）を掲示しなければなりません。また、エントリーフィーについての定義が ICR には存在しないので、これらの情報ソースを活用しての事前告知が重要である。

213

プログラム

FIS カレンダーに掲載されている各競技会の開催者は、次の事項を含んだプログラムを公表しなければならない：

213.1

競技名称、競技日程、開催地。また、競技会場に関する情報と最善のアクセス方法。

213.2

各競技のテクニカルデータと参加条件

213.3

主要役員の氏名

213.4

第1回チームキャプテンミーティング及びドローの時間と場所

213.5

公式トレーニング開始とスタート時間のタイムテーブル

213.6

公式掲示板の設置場所

213.7

授賞式の時間と場所

213.8

エントリー締切日とエントリー用の住所、電話、ファックス、電子メールアドレス。

申込期日

Deadline for Entries

604.4

申し込みとドロー

604.4.1

大会主催者は最終申し込み日 ([art. 213.8](#)) を最初のキャプテンミーティングの48時間から24時間前まで ([art. 215.1](#)) に決めなければならない。

604.4.2

チームキャプテンが代理を使う場合はドロー前だけとする。

604.4.3

[art. 213](#)に基づいて作成された大会プログラムは、FISのウェブサイト及びアルペン競技カレンダーに記載されなければならない。

※注意点

このルールは新設されたものです。競技開催地における最初のTCMまでに必要な情報を事前に英語と日本語の両言語で大会要項を作成し、公開して下さい。

ICR文言調整 競技用品

606.5.1

スタートナンバー (Bibs)

すべての選手は、レース中、公式スタートナンバー (Bibs) を着用しなければならない。ビブのデザインとコマーシャル・インプリントの場合、FIS広告規則の規格を参照。全てのビブは、競技会中、同じ形をし、大きさ、取り付け方法を変更してはならない。

- 606.2 競技スーツ
- 606.2.1 冬季オリンピック、FIS世界選手権、FISワールドカップ、FISコンチネンタルカップ及びFISジュニア世界選手権の滑降、大回転及びスーパーG競技については、競技スーツには~~プロンプ (FISカン)~~ FIS競技スーツ規格を順守している事を証明するラベルもしくはプロンプ (FISカン) が付けられていなければならない。
- 606.2.2 ~~すでに検査を受けたスーツのプロンプが、何らかの理由により無くなっている場合は、~~暫定スタートが認められる。競技スーツはFIS競技スーツ規格を順守している事を証明するラベルもしくはプロンプ (FISカン) が付けられていなければならない。

滑降/スーパーG/大回転:

必要条項を満たしていることは、特別に標準化された適合ラベルにより証明され、そのラベルは競技スーツのスキーブーツ上部上の左下腿部に剥がれない方法で競技中も目視できる位置に付けられる。適合ラベルは次の文言を含む：

«競技スーツはFIS規格2015に準ずる».

製造者/メーカーによって付けられたラベルは資料に示された規格に準ずることとする。適合ラベルは製造者/メーカーと各国スキー連盟が競技スーツの表メインは可塑化や化学処理（気体、液体、固体）を施していない、また30リットル/m²/秒以上（with a measurement tolerance of 3,0 litres per m²/sec.）であることを保証する。

※（3リットル/m²/秒以上の許容誤差は認める）

- 606.5.1 用具規則
詳細については、ICR 第 222 条及び、続く記述、そして、FIS 競技用品及び商標掲示の仕様規則を参照のこと。（FIS Specification for Equipment and Commercial markings）
- ※注釈 用具規則については、606 条 1 項を 606 条 5 項とし、606 条 5 項を 606 条 1 項とした。

U18の25スタート（最初の年）

607.3 国際大会の部

認められている生まれた年

FIS競技年別	15/16	16/17
U14	2003	2004
	2002	2003
U16	2001	2002
	2000	2001
U18 ¹⁾	1999	2000
	1998	1999
U21	1997	1998
	1996	1997
	1995	1996
免許 (licensed)	1999から前	2000から前
マスターズA (男)	1985～1961	1986～1962
マスターズB (男)	1960から前	1961から前
マスターズC (女)	1985から前	1986から前

1) ~~U18の最初の年：FISポイントが獲得できる大回転、回転の1シーズンの大会出場を25回までとする。最初の年の選手は25回以上の大会への参加をしないこと。25回の大会出場を超えた場合は、それらの競技での結果は無効とされ、FISポイントも獲得できない。高速系競技の滑降、スーパー大回転、複合に対しては大会参加回数の制限はない。青年委員会はルールへの違反や推薦承諾がある場合は部門委員会と理事会に報告する。部門委員会はFIS理事会に報告する。~~

※注釈 2015-16シーズンより16歳のシーズン25レース制限は排除されました。

ダブルエントリー(二重申し込み)

621.12 ダブルエントリー(二重申し込み)

一選手が一大会のスタートを切った場合、同じ日に行われる違う大会で、彼はDNS1として表示されない、DHトレーニングは除く。一選手が大会に申し込み、ドローもされたが、他のDHの大会へ出場するためにこの申し込んだ大会に出場しなかった場合、この選手はその申し込んだDHの大会に参加しに戻ることは出来ない。FIS事務局は全ての二重申し込みをFIS理事会に適切な行為のため言及する。

※注釈 DHにおけるダブルエントリーが多く発生していることに対処したルール。ICRではエントリーは加盟国連盟によってなされるものと定義されている。これに伴い海外での選手エントリーもSAJに申請し、求めるものになる。

スタート前の失格

627 スタートすることを許可しない (N P S: Not Permitted to Start)

以下に対照する選手は、FIS国際スキー大会への出走を許可しない：

627.2 FIS水準の競技備品または、宣伝作りに対してFISルール違反する (art. 222 と art. 207)。 (art. 606.2の競技スーツは除く)。

627.6 FIS水準の競技備品として認められたクラッシュヘルメットを着用しない (art. 606.4) または、スキーにブレーキがない場合。

※注釈 このルールでは、失格にしないが、出走を許可しないと言うルールです。管理はスタートで行うが、用具チェックはスタートレフリー以外の支援は効率的にも良い事なので、TDからも要請があったら対応してほしい。

コース公認の発行日について

650.6.6.1 滑降とスーパー大回転

証明書は発行日から有効：有効期限は5年後の発行された年の11月1日*から5年間までとする。有効期限が切れた後、再承認は新しい証明書が発行される前までに作らなければ、行わなければならない。*)=南半球は発行された年の7月1日とする。

650.6.6.2 回転、大回転

証明書は発行日から有効：有効期限は10年後の発行された年の11月1日*から10年間までとする。有効期限が切れた後、再承認は新しい証明書が発行される前までに作らなければ、行わなければならない。*)=南半球は発行された年の7月1日とする。

ゲートパネルの異なる色

695 色

主要の大会 (201.3.1) やカップ (201.3.2.と 201.3.3) には、異なる色で交互に変わるようにポールとパネルが使用される可能性がある。どの FIS レベルの大会でも赤の代わりにオレンジが使われることがある。ポールとパネルは色を揃えるべきとする。

※注釈 このルールは安全ネット（赤色が主流）に赤いGSパネルが滑走中の選手に認証し易いようにと提案された。WC委員会では、FISの伝統を重んじる上で、DHにのみオレンジ色のゲートパネルを使用するとされている。また、パネルとSLポールは同色にする。

滑降の二本滑走 (FISポイントルールより)

- 706.2.5 DH競技で二本滑走を実施する場合、FISカレンダーで明らかに表示し、競技コースの標高差はICRのart. 701.01に基づいたものでなければならない。
- 706.2.6 本来の滑降の大会が(好ましくない雪の状況や悪天候から)危険にさらされるような場合、ジュリーは滑降で二本滑走を実施することを許可されている。

全てのFIS競技でのシングルポールルール

804 回転のシングルポール

以下を除く、全てのICRのルールを有効とする：

804.1 回転競技のシングルポールは全ての国際 FIS レベルの競技だけで認められる。(art. 201.3.4、201.3.5、と 201.3.6 をご参照下さい。)

※注釈 ワールドカップにおいては、初戦 (Levi、NOR) にてテストして決めるとのこと。

パラレルコースセッティングの距離

1225 二つのコースの距離

二つの平行に置かれた同じ位置のゲート (ターニングポールからターニングポールまで) の間の距離を **6m 以下、8m 以上** にしないこと。スターティングゲートの距離は二つのコースとも同じ長さにするべきとする。

競技用品及びコマーシャルマーキング規格変更事項2015年版

5. 競技 ~~レーシング~~ スーツ

ダウンヒル、スーパーG、大回転で使用される競技スーツ及びその下に着る衣類(下着 等)の内側と外側は、織布の表面でなければならない。その表面は可塑化や化学処理(気体、液体、固体)を施すことはできない。また空気透過率が30リットル/m²/秒以上でなければならない。シーム(縫い目)は、スーツの部位をつなぎ合わせる目的でのみ使用できる。外側のタックやダーツは認められない。競技スーツはすべての場所で、外側から内側、また内側から外側の両方とも、等しい浸透性がなければならない。最小空気透過率を次の通り定める：

生地を伸ばさない状態で、10mmの水圧下において、30リットル/m²/秒以上(3リットル/m²/秒以上の許容誤差は認める)。

選手は、全ての種目で、いわゆるプロテクターを用いて、全身を保護することができる。

滑降の場合、プロテクター(パット)を競技スーツと一体にすることはできない。

すべての種目で、これらのプロテクターは、~~プロンプ~~を押された~~レーシング~~規格に準じた競技スーツの下に着なくてはならない。(例外：スーパーG、大回転、回転で使われる前腕のプロテクション、SLで使われる脛のプロテクション(シンガード))

プロテクターは、~~30リットルの空気透過率ルール~~ 30リットル/m²/秒以上の許容誤差は認めるを満たしていなくてはならない。但し、次の箇所を例外とする。

肩、肩甲骨、胸、腕、脚

解剖学的な体形を変えてはならない。

競技スーツにおけるFIS規格に準じた適合ラベルの貼付け

(滑降/スーパーG/大回転)

必要条項を満たしていることは、特別に標準化された適合ラベルにより証明され、そのラベルは競技スーツのスキーブーツ上部上の左下腿部に剥がれない方法で競技中も目視できる位置に付けられる。適合ラベルは次の文言を含む：「競技スーツはFIS規格2015に準ずる」。製造者/メーカーによって付けられたラベルは資料に示された規格に準ずることとする。

適合ラベルは製造者/メーカーと各国スキー連盟が競技スーツの表メインは可塑化や化学処理（気体、液体、固体）を施していない、また30リットル/m²/秒以上（3リットル/m²/秒以上の許容誤差は認める）であることを保証する。

適合ラベルとプロンビングの両コントロールシステムが2017/2018シーズン終了時まで移行期間として運用される。

違った素材のコントロールはFISコントローラーの決定により各国スキー連盟と製造者/メーカーに提供される。

各国1回のセッション最大4テストパッチが認められる。

過去のシーズンのワールドカップ検査手順通り、コントローラーが競技会前の検査を実施するかを決定をする。

各国スキー連盟は競技会の前にワールドカップで着用する競技スーツの検査を受ける事ができる。

このコントロールはマテリアルが検査されFIS規格に準じていることの確認が与えられるのみである。



横：30mm

縦：45mm

ヘルメットの変更/修正点

6.2.4 変更/修正/追加要素

ヘルメットは生産者/メーカーが認証したもので、変更/修正なしでの使用とする。また、追加の要素/用品をヘルメットの表面に取り付けられないものとする。

※要注意

ヘルメットにカメラを取り付けている選手も多いと思われませんが、これらは、排除しなければなりません。また、カメラを取り付けるためにヘルメットに貼付するアタッチメントもその対象となり、出走することができません。仮に出生した場合は失格となります。

その他

アルペンワールドカップ小委員会

ワールドカップファイナル 2019

アルペン委員会からの要請であった Soldeu (AND) を 2019 シーズンのワールドカップ主催者（組織者）として確認した。

ヨーロッパカップ小委員会

2.2.1.1 1 イベントでのジャイアントスラロームとスラーロームの出場枠

1 イベントでのジャイアントスラロームとスラーロームの出場枠 **GS** と **SL** が 1 イベントで開催する場合、**GS** または **SL** のハイヤークオータは両イベントで有効である。更に **COC** 勝者も追加枠として有効である。

アルペンコース小委員会

ホモロゲーション料金（公認料金）

2015 年春、スキージャンプ委員会はジャンプ台の公認について公認料金の値上げを要望していた。クロスカントリーの新しい公認ソフトウェアは制作に掛かったコストをカバーするために若干の料金アップが承認された。理事会は、料金についてすべての種別において統一的整備されるよう求めた。

Oberhofen 会議で、理事会は以下の提案のあった料金改訂を承認した。

ここでは、アルペンのみを紹介します。

Alpine 通貨：CHF

	概要	現行料金	新しい料金
ALPINE	テクニカルデータの軽微な修正	無料	→
	1 コース/1 イベント	450	175
	1 コース/2 イベント	450	200
	1 コース/3 イベント	300	→
	1 コース/4 イベント		325

※理事会の承認を経て、料金アップが図られた。